

### 処理経費（処理単価）の計算方法について

- ・ 進行管理（資料 1）1 ページの循環型社会形成の指標は、本市のごみ処理の実態に即して集計した「ごみ処理実績」（資料 1、16 ページ参照）の排出量・処理量を用いていますが、経済性指標については、県内 19 市と比較するために、「神奈川県一般廃棄物処理実績報告」の作成基準に基づいて計算した処理単価を用いています。
- ・ 平成 29 年度処理単価の計算方法は表 1 のとおりですが、計算に用いた処理量は、県の作成基準に沿って注釈の説明のとおり算出しているため、本市のごみ処理実績と一致していません。

表 1 平成 29 年度処理単価の計算方法

項目	金額	県報告処理量	処理単価	市実績処理量
総処理経費	5,483,736 千円	111,410 トン <sup>※1</sup>	49,221 円/トン	110,950 トン
収集経費	2,206,726 千円	81,351 トン <sup>※2</sup>	27,126 円/トン	—
中間処理経費	2,682,587 千円	106,796 トン <sup>※3</sup>	25,119 円/トン	—
最終処分経費	594,423 千円	5,055 トン <sup>※4</sup>	117,591 円/トン	<sup>※5</sup> 5,083 トン
資源化経費	1,444,505 千円	42,487 トン <sup>※6</sup>	33,999 円/トン	42,455 トン

※ 1 ごみ量（市実績）110,950 トン＋蛍光管（集団資源回収）23 トン＋古着焼却 437 トン

※ 2 直営収集 30,939 トン＋委託収集 50,412 トン

※ 3 直接焼却 88,906 トン＋粗大処理 2,986 トン＋その他資源化処理 14,904 トン

※ 4 不燃ごみ搬入量（市実績）5,105 トン－搬出先資源化量 70 トン＋破碎不適物 20 トン

※ 5 不燃ごみ搬出量 5,153 トン－搬出先資源化量 70 トン

※ 6 資源化量（市実績）42,455 トン＋紙類調整 38 トン－乾電池等調整 6 トン